

一般社団法人 CEPA ジャパン

定時社員総会

議案書

日時:2017年5月22日(月曜日)18時30分~19時30分

会場:ちよだプラットフォームスクエア 502 会議室

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 3-21

- ・JR 神田駅西口から出世不動通り徒歩 12分 <http://yamori.jp/access/>
- ・地下鉄 ■竹橋駅(東西線)3b KKR ホテル東京玄関前出口より徒歩 2分
- 神保町駅(三田線・新宿線・半蔵門線)A9 出口より徒歩 7分
- 大手町駅(三田線・千代田線・半蔵門線・丸の内線)C2b 出口より徒歩 8分
- 小川町駅(新宿線・千代田線)B7 出口より徒歩 8分

○開会 代表理事あいさつ

第1部 総会

1. 総会開会の辞
 2. 定足数の確認
 3. 議長選出
 4. 議案審議
- 第1号議案 2016年度 事業・活動報告
- 第2号議案 2016年度 収支決算報告
- 第3号議案 2017年度 事業・活動計画
- 第4号議案 2017年度 予算計画
- 第5号議案 理事選任
5. 議長退任

○閉会

第2部 交流会 19時30分~21時30分

会場: 結ぶ食房「しまゆし」(※総会の会場と同じ建物 1F)

ちよだプラットフォームスクエア【1F】 TEL 03-5259-8051

会費: 4,000円

第1号議案 2016年度 事業・活動報告

1. 事業展開方針

第7期は、次のように位置付けて活動を展開した。

【事業展開方針】 ■第2ステージは上昇へ

2010年のCEPAジャパン創設から第7期を迎える本年度は、法人としての基礎固めであった「第1ステージ」から、普及拡大を加速度的に高めていく「第2ステージ」へいよいよ本格稼働を果たしていく。生物多様性を入り口にした自然共生な暮らしの気づきから、自然共生な暮らし、「いきものぐらし」のデザインへ当法人らしい事業展開を形作っていく年と位置づける。その活動のキーワードとして「いきものぐらし」を掲げ、「5つのアクション」に基づいて事業展開する。

<事業内容>

2016年度はCEPAジャパンの「第2ステージ」の本格稼働となる一年として、以下の事業を展開した。

<1> CEPAジャパンの組織基盤強化

1. 事務局体制の強化

当法人への期待に応えるために、「地球と未来の環境基金」のご協力で設置した事務局は、3年目を迎え、生物多様性アクション大賞の事務局として機能強化に努めた。また、外部の公認会計士のご指導により財務基盤強化が一層進んだ。

2. 支援者組織化

会員数は、個人・法人あわせて、21名であり、引き続き、会員拡大に努力する。

2016年3月31日現在の会員数は以下のとおりである。

運営会員 16名 賛同会員(個人) 4名 賛同会員(団体) 1名 賛助会員 0名

3. 広報

当法人の基幹事業として引き続き「5 ACTIONS」に関するツールの開発を行った。

3-1. CEPAジャパンのオフィシャルサイト

一昨年リニューアルしたサイトで、さらに国内の生物多様性の事例紹介などの情報発信に努めた。特にトップページに数多くの「生物多様性・的な」サイトを紹介して、関心のある方にとってのポータルサイト化を目指した。

<http://cepajapan.org>

3-2. CEPA ツールキットの公開

同じくサイトで2007年刊行の生物多様性を主流化するための「CEPA(コミュニケーション・教育・普及啓発)ツールキット」日本語版を公開し、普及啓発に努めた。

<http://cepajapan.org/projects/toolkit/>

3-3. 生物多様性アクション大賞の運営

生物多様性の先進事例の収集を図るため、応募についての情報発信を行い、自然保護関係者やCSR担当者・一般来場者が多く集まるエコプロダクト展で授章式を開催。大賞団体の講演及び受賞団体の事例紹介に努めた。また地域でのパワーアップを図るためのワークショップ開催の参加を呼びかけた。

<http://5actions.jp/award/>

3-4. 「いきものぐらし」のサイト

生物多様性に貢献している企業事例などを紹介して、一般消費者が選択可能な情報を整備。一昨年度開設以来、CEPAに関するホームページを充実するとともに、英文対応のサイトも充実を図り、CEPAに関する情報発信に努めた。

<http://5actions.jp> 「英文対応のサイト」 <http://5actions.jp/en/>

3-5. 紹介リーフレットの発行

2016 年度のハイライトを網羅して、CEPA ジャパンとはどのような団体で、何を目指して、どんな活動をしているのかを紹介できる紹介リーフレット冊子を作製した。

3-6. 国内の事例収集

CEPA ジャパンの活動について、国内の事例収集を中心に行い、情報発信に努めた。

<https://sites.google.com/site/cepajapan2012/home/information>

3-7. CEPA さんぽ

「CEPA さんぽ」ツールとして、自然観察会などの帰り道に、生物多様性にあふれた周囲の自然などに気づくきっかけとなるツールを作成した。

3-8. いろとりどりサイト

生物多様性に配慮した食品などを選択して購入できるように、情報の紹介ポータルサイトの構築を目指した。

<http://iro-toridori.info/>

3-8. facebook ページ

SNS での情報発信に努めた。

和文 <http://www.facebook.com/cepajapan.org> 英文 <http://www.facebook.com/CepaJapan>

4. 総会・理事会の開催

【総会】

2016 年度の通常総会は 2016 年 6 月 8 日(水)に、ちよだプラットフォームスクエア会議室で開催した。

2015 年度事業報告と決算を承認、2016 年度計画と予算について決議した。

なお、総会終了後は、会場を 1F の fune ふねに移して、第2部として生物多様性保全に努力している内外の団体に呼び掛け交流会パーティとして開催した。2013 年度からの同様の形式での開催であったが、本年は国際生物多様性の日(5/22)が日曜日で他行事と重なったため、別開催としたが「いきものぐらし」を考える日として、実施した。

【理事会】

また、2016 年度の理事会は以下の 4 回を開催した。

●2016 年 4 月 21 日理事会(ファンドレックス会議室)

総会の審議に付与するべき事項について審議、総会議案として上程した。

・2015 年事業報告・決算、2016 年事業計画・予算

・合わせて今年度の事業計画の運営体制に関することを審議した

●2016年10月27日理事会(スペースポート会議室)

今年度の事業計画の運営体制に関することを協議した。特に直前に迫った生物多様性アクション大賞の表彰式運営に関する、および下半期の運営に関することを協議した。

●2017年1月16日理事会(ファンドレックス会議室)

事業運営に関する事項を協議した。

- ・生物多様性アクション大賞の評価について協議した。
- ・下半期の事業計画、予算推移について確認した。

●2017年2月21日理事会(ファンドレックス会議室)

次年度に向けての意見交換を行った。

- ・次年度に向けての地球環境基金の申請と次年度の事業運営にあたっての目玉づくり

5.その他

財政基盤強化をはかり、特に自主財源の獲得に注力した。特に生物多様性アクション大賞は年間を通じての取り組みになるため、企業との連携を深めた。また組織基盤安定のため、地球環境基金からの助成を受けて、生物多様性の普及啓発を行った。

<2> 普及啓発事業

1.生物多様性アクション大賞の開催

1-1.応募状況と受賞団体

国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J)が推進している『5つのアクション(たべよう・ふれよう・つたえよう・まもろう・えらぼう)』に貢献する団体・個人の取り組みを全国から募集。優れた活動を表彰、積極的な広報を行うことにより、生物多様性の主流化を目指す。活動規模の大小を問わず、あらゆるセクターに「生物多様性の自分ごと化」を促し、「国連生物多様性の10年」の広報・教育・普及啓発(CEPA)活動の一つとして、またCOP10で採択された「愛知目標」達成の一助として実施する。2015年度より国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J)の主催事業となったが、CEPA ジャパンが主導して、引き続き事務局の機能を担った。今年度は全国から総数104もの優れた活動の応募をいただいた。10月20日に開催された「第6回生物多様性 全国ミーティング」(主催:国連生物多様性の10年日本委員会、環境省)において5部門の優秀賞を公表し、その後、特別賞、審査委員賞、入賞を発表。11月19日に開催した受賞式典での優秀賞プレゼンテーションを経て大賞が決定。また、今年度は審査の結果、大賞に比肩する活動として特別に未来賞が贈賞した。

[大賞] つたえよう部門優秀賞

糸島こよみ 糸島こよみ舎(福岡県糸島市)

[未来賞] ふれよう部門優秀賞

リトルファーマーズ養成塾 特定非営利活動法人田舎のヒロインズ(熊本県阿蘇郡)

[優秀賞]

- たべよう部門「木の実のシロップ作りと地域の活性化」株式会社森と暮らすどんぐり倶楽部(福井県

三方郡)

- まもろう部門「野生動物交通事故調査活動」富士山アウトドアミュージアム(山梨県南都留郡)
- えらぼう部門「輸入合板代替製品で生物多様性に貢献する」三菱ケミカルホールディングスグループ クオドラント・プラスチック・コンポジット・ジャパン株式会社(三重県四日市市)

[特別賞]

- 復興支援賞「昔の子どもたちから未来の大人たちへ」あじ島冒険楽校(宮城県石巻市)
- グリーンウェイブ賞「総合的な学習「産土タイム」大船渡市立末崎中学校(岩手県大船渡市)
- セブーン・イレブン記念財団賞「日光白根山のシラネアオイ群落の保護・復元活動」群馬県立尾瀬高等学校自然環境科(群馬県沼田市)
- 審査員特別賞「小網代の森の生物多様性の回復」特定非営利活動法人小網代野外活動調整会議(神奈川県三浦市)

[審査員賞]

- 「ぼくらは里地里山探検隊」特定非営利活動法人エコパル化女沼(宮城県大崎市)
 - 「火の河原の里山の魅力発信」カエル PROJECT(鹿児島県鹿児島市)
 - 「海を学び、海を食べよう！」環境ボランティアサークル亀の子隊(愛知県渥美半島)
 - 「コーヒー一杯でできる里山保全」特定非営利活動法人里山倶楽部(大阪府南河内郡)
 - 「ヤシノミ洗剤の売上1%で支援するボルネオ環境保全」サラヤ株式会社(大阪府大阪市)
 - 「須原 魚のゆりかご水田プロジェクト」せせらぎの郷(滋賀県野洲市)
 - 「『ふゆみずたんぼ』の『生物文化多様性(Bio-cultural Diversity)』を体感するたんぼプロジェクト」特定非営利活動法人たんぼ(宮城県大崎市)
 - 「在来馬の伝統耕作復活プロジェクト」特定非営利活動法人都留環境フォーラム(山梨県都留市)
- 開催に当たっては、ニュースリリースを行うとともに、告知、チラシ配布、5Action サイトでの告知などを行った。また昨年に引き続き、生物多様性アクション大賞アンバサダーに「さかなクン」に就任していただいた。

1-2.授賞式

【日時】2016年11月19日(金)14:00-17:00 【場所】スクエア荏原・大会議室

授賞式会場となったスクエア荏原には、北は東北から南は九州まで日本各地から受賞者の方々が集まり、審査委員並びに協賛企業の皆様から表彰状と目録が贈られた。審査委員特別賞、審査委員賞、特別賞の受賞者から、3枚の写真を使った「3ピーストーク」という手法で活動を紹介。そして、5部門の優秀賞を受賞した団体のプレゼンテーション。どこが大賞になってもおかしくない発表内容に、来場者も聞き入った。このプレゼンテーションによって最終審査を行い、生物多様性アクション大賞 2016 の大賞が決定した。

<http://5actions.jp/award2016/ceremony.html>

1-3.エコプロ 2016 での発表

大賞受賞者は日本最大の環境展示会、エコプロ 2016 会場のステージ「もっと身近に生物多様性をさかなクンと一緒に考えよう！」で、生物多様性アクション大賞アンバサダーのさかなクンと共演。大賞

を受賞した生物多様性アクション大賞 2016 の「糸島こよみ舎」から 5 分のプレゼンテーション。地域の 365 日を毎年日めくりカレンダーにして販売している取り組みです。さかなクンによる、お魚クイズを交えたトークも楽しく、会場は大入り満員の大盛況で、生物多様性をぐっと身近に感じられるステージになった。

【日時】2016 年 12 月 10 日(土) 13:30-14:15 【場所】東京ビックサイト 第 2 ホール「イベントステージ」
【テーマ】もっと身近に生物多様性を、さかなクンと一緒に考えよう！

2. 普及啓発

2-1.. 自然観察会の開催

自然観察指導員東京連絡会の協力を得て、自然観察会を開催できた。合計約 270 人の方に都会の中での生物多様性を感じていただくことができた。

●2016 年 5 月 22 日(日)国連生物多様性の日記念「自然観察会」参加者 200 名 【場所】日比谷公園
http://cepajapan.org/member_blog/1956/

●2016 年 8 月 3 日(水)「セミの羽化観察会」参加者 70 名 【場所】日比谷公園
http://cepajapan.org/member_blog/1883/

3. その他

3-1.CEPA ジャパンとして、以下の事業に共催・後援・協力名義の使用を許可した。

【共催】

自然観察指導員東京連絡会(NACOT)「みどりの自然観察会」

【後援】

【協力】

3-2.CEPA ジャパンとして、以下の会合に参画・提言を行った。

■[国際会議参加]

・モントリオール(カナダ)で 11 月 2 日～7 日に開催された CBD SBSTTA19/8JWG に宮本理事が参加し、NGO 会合・本会議・作業部会・サイドイベントに参加し、情報収集と他国 NGO との連携を図った。

・パタヤ(タイ)で 12 月 1 日～4 日に開催された国連コンゴ盆地「シティアップ」第 30 回総会(ICRI30)に宮本理事が参加し、総会・エクスカーションにおいて情報収集と参加者(政府・国連組織・IGO・NGO)との連携を図った。

・バンコク(タイ)で 2 月 15 日～19 日に開催されたアセアン生物多様性カンファレンス 2016(ACB216)に宮本理事が参加し、本会議・分科会において情報収集と参加者(政府・ビジネス・NGO)と連携を図った。

■[国内事業]

・グリーン復興について南三陸(宮城)におけるプロジェクトに 4,5,11,2 月に参画し、海と田んぼからのグリーン復興会議にて共有した。南三陸(宮城)の「山さ、ございん」プロジェクトに川廷代表が 4 月・5

作成中

月・11月に参画し、「海さ、ごさいん」プロジェクトにおいて川廷代表・宮本理事が2月6日・27日の実行委員会を運営し、2月7日・28日に関係者との会合を持ち連携を深めた。また、「海と田んぼからのグリーン復興プロジェクト」定例会合の運営に事務局として参画した。

・NGOとのネットワーク強化を図った。高野山(和歌山)で7月11日～12日に開催された森川里海シンポジウムに宮本理事が参加し、参加団体との連携を図った。

名護(沖縄)で1月23日に開催された農業と生物多様性シンポジウムに宮本理事が参画し、運営を支援するとともに参加団体との連携を図った。

・里山・里海の良い事例収集を行った。8月「ゴベツリ(長野(長野))」において馬搬および自然農による流域管理、9月20日～21日に対馬(長崎)において耕作放棄地再生およびツシマヤマネコ保全を促進する農業の取り組み、3月5日にサンゴ養殖と植え付けによるサンゴ礁再生の取り組み、について宮本理事がヒアリングした。

・サンゴ礁保全・提言に向け、日本サンゴ礁学会のサンゴ礁生態系保全行動計画提言書作成タスクフォースに参画した。渡嘉敷島(沖縄)で11月14日～15日に、石垣島(沖縄)で1月16日～17日に、サンゴ礁の健康診断を宮本理事が行った。石垣島(沖縄)で3月26日～27日にサンゴ礁保全の取り組みヒアリングを宮本理事らが行った。

・B センスフォーラムと協働した。「5つのアクション」を実感できる取り組みであるB センスさんぽの下見を小樽(北海道)で7月25日～26日に、広島&呉(広島)で12月23日～24日に、宮本理事らが下見を行った。博多(福岡)で9月22日に宮本理事がトライアルを行った。

■参画

- ・公益財団法人日本自然保護協会(NACS-J)に団体会員として加盟
- ・SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワークに参加
- ・生物多様性民間参加パートナーシップへ参加申請、川廷代表はアドバイザリーボード
- ・国連生物多様性の10年日本委員会の委員、運営部会のメンバーとして、「MY 行動宣言5つのアクション」を生物多様性の主流化に向けたツールとして制作した
- ・低炭素社会実現に向けた気候変動キャンペーン「Fun to Share」に賛同
- ・生物多様性ちば企業ネットワークに支援メンバーとして参画

第 2 号議案 2016 年度収支決算案

正味財産増減計算書

平成28年 4 月 1 日～平成29年 3 月31 日

| 一般会計 | | (単位:円) | | |
|---------------------|----------------|---------------|-----|-------------|
| 科 目 | 当 年 | 前 年 | 増 減 | |
| I 一般正味財産増減の部 | | | | |
| 1 経常増減の部 | | | | |
| (1) 経常収益 | | | | |
| ① 受取会費 | [174,000] | [296,000] | [| △ 122,000] |
| 受 取 会 費 | 174,000 | 296,000 | | △ 122,000 |
| ② 事業収益 | [9,857,251] | [8,752,878] | [| 1,104,373] |
| 受 託 事 業 収 益 | 9,857,251 | 8,752,878 | | 1,104,373 |
| ③ 受取助成金 | [4,315,000] | [4,033,000] | [| 282,000] |
| 受 取 助 成 金 | 4,315,000 | 4,033,000 | | 282,000 |
| ④ 受取寄付金 | [429,970] | [273,000] | [| 156,970] |
| 受 取 寄 付 金 | 429,970 | 273,000 | | 156,970 |
| ⑤ 雑収益 | [67,006] | [75,727] | [| △ 8,721] |
| 受 取 利 息 | 6 | 127 | | △ 121 |
| そ の 他 | 67,000 | 75,600 | | △ 8,600 |
| 経 常 収 益 計 | 14,843,227 | 13,430,605 | | 1,412,622 |
| (2) 経常費用 | | | | |
| ① 事業費 | [14,381,132] | [9,350,355] | [| 5,030,777] |
| 外 注 費 | 7,627,384 | 1,729,640 | | 5,897,744 |
| 荷 造 運 賃 | 9,504 | 10,770 | | △ 1,266 |
| 活 動 支 援 費 | 700,000 | 700,000 | | 0 |
| 広 告 宣 伝 費 | 1,831,150 | 2,981,980 | | △ 1,150,830 |
| 会 議 費 | 129,600 | 305,500 | | △ 175,900 |
| 旅 費 交 通 費 | 3,293,051 | 2,550,158 | | 742,893 |
| 通 信 費 | 31,614 | 105,840 | | △ 74,226 |
| 消 耗 品 費 | 59,250 | 63,072 | | △ 3,822 |
| 新 聞 図 書 費 | 0 | 100,225 | | △ 100,225 |
| 諸 会 費 | 126,635 | 15,000 | | 111,635 |
| 支 払 手 数 料 | 27,324 | 23,706 | | 3,618 |
| 支 払 報 酬 料 | 540,000 | 540,000 | | 0 |
| 賃 借 料 | 5,620 | 220,414 | | △ 214,794 |
| 保 険 料 | 0 | 4,050 | | △ 4,050 |
| ② 管理費 | [2,052,400] | [2,091,414] | [| △ 39,014] |
| 外 注 費 | 1,814,400 | 1,782,000 | | 32,400 |
| 荷 造 運 賃 | 3,054 | 22,941 | | △ 19,887 |
| 交 際 費 | 6,588 | 0 | | 6,588 |
| 会 議 費 | 0 | 5,157 | | △ 5,157 |
| 旅 費 交 通 費 | 9,351 | 9,406 | | △ 55 |
| 通 信 費 | 69,964 | 50,439 | | 19,525 |
| 消 耗 品 費 | 15,543 | 61,032 | | △ 45,489 |
| 支 払 手 数 料 | 100,000 | 150,432 | | △ 50,432 |

| | | | |
|-------------------|-------------|-------------|-------------|
| 賃借料 | 33,100 | 0 | 33,100 |
| 租税公課 | 400 | 10,007 | △ 9,607 |
| 経常費用計 | 16,433,532 | 11,441,769 | 4,991,763 |
| 当期経常増減額 | △ 1,590,305 | 1,988,836 | △ 3,579,141 |
| 2 経常外増減の部 | | | |
| (1) 経常外収益 | [0] | [0] | [0] |
| 経常外収益計 | 0 | 0 | 0 |
| (2) 経常外費用 | [0] | [0] | [0] |
| 経常外費用計 | 0 | 0 | 0 |
| 当期経常外増減額 | 0 | 0 | 0 |
| 税引前当期一般正味財産増減額 | △ 1,590,305 | 1,988,836 | △ 3,579,141 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 70,000 | 141,914 | △ 71,914 |
| 当期一般正味財産増減額 | △ 1,660,305 | 1,846,922 | △ 3,507,227 |
| 一般正味財産期首残高 | △ 192,286 | △ 2,039,208 | 1,846,922 |
| 一般正味財産期末残高 | △ 1,852,591 | △ 192,286 | △ 1,660,305 |
| Ⅱ 正味財産期末残高 | △ 1,852,591 | △ 192,286 | △ 1,660,305 |

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 消費税等の会計処理

税込方式

貸借対照表

平成29年3月31日現在

| 科 目 | 当 年 | 前 年 | (単位：円) 増減 |
|--------------------|--------------------|------------------|--------------------|
| I 資産の部 | | | |
| 1 流動資産 | | | |
| 現 金 預 金 | 311,948 | 121,104 | 190,844 |
| 未 収 入 金 | 708,351 | 1,000,000 | △ 291,649 |
| 仮 払 金 | 0 | 31,400 | △ 31,400 |
| 仮 払 税 金 | 0 | 0 | 0 |
| 流 動 資 産 合 計 | 1,020,299 | 1,152,504 | △ 132,205 |
| 2 固定資産 | | | |
| 固 定 資 産 合 計 | 0 | 0 | 0 |
| 資 産 合 計 | 1,020,299 | 1,152,504 | △ 132,205 |
| II 負債の部 | | | |
| 1 流動負債 | | | |
| 短 期 借 入 金 | 2,802,890 | 1,202,890 | 1,600,000 |
| 未 払 法 人 税 等 | 70,000 | 141,900 | △ 71,900 |
| 流 動 負 債 合 計 | 2,872,890 | 1,344,790 | 1,528,100 |
| 2 固定負債 | | | |
| 固 定 負 債 合 計 | 0 | 0 | 0 |
| 負 債 合 計 | 2,872,890 | 1,344,790 | 1,528,100 |
| III 正味財産の部 | | | |
| 1 一般正味財産 | △ 1,852,591 | △ 192,286 | △ 1,660,305 |
| 2 指定正味財産 | 0 | 0 | 0 |
| 正味財産合計 | △ 1,852,591 | △ 192,286 | △ 1,660,305 |
| 負債及び正味財産合計 | 1,020,299 | 1,152,504 | △ 132,205 |

財産目録

平成29年3月31日現在

(単位：円)

| 内 訳 | 金 額 | | |
|-------------------|---------------|-----------|-------------|
| I 資産の部 | | | |
| 1 流動資産 | | | |
| 現金 | [50,785] | | |
| 普通預金 | [261,163] | | |
| 三菱東京UFJ銀行横浜支店 | 261,163 | | |
| 未収入金 | [708,351] | | |
| 受託事業未収入金 | 708,351 | | |
| 流動資産合計 | | 1,020,299 | |
| 2 固定資産 | | | |
| | [0] | | |
| 固定資産合計 | | 0 | |
| 資産合計 | | | 1,020,299 |
| II 負債の部 | | | |
| 1 流動負債 | | | |
| 短期借入金 | [2,802,890] | | |
| 運転資金借入 | 2,802,890 | | |
| 未払法人税等 | [70,000] | | |
| 流動負債合計 | | 2,872,890 | |
| 2 固定負債 | | | |
| | [0] | | |
| 固定負債合計 | | 0 | |
| 負債合計 | | | 2,872,890 |
| III 正味財産の部 | | | |
| 正味財産 | | | △ 1,852,591 |

事業別 正味財産増減計算書

平成28年4月1日～平成29年3月31日

| 一般会計 | (単位:円) | | |
|---------------------|-------------------|------------------|------------------|
| 科目 | 法人合計 | 公益事業 | 収益事業 |
| I 一般正味財産増減の部 | | | |
| 1 経常増減の部 | | | |
| (1) 経常収益 | | | |
| ① 受取会費 | [174,000] | [174,000] | [0] |
| 受取会費 | 174,000 | 174,000 | 0 |
| ② 事業収益 | [9,857,251] | [0] | [9,857,251] |
| 受託事業収益 | 9,857,251 | 0 | 9,857,251 |
| ③ 受取助成金 | [4,315,000] | [4,315,000] | [0] |
| 受取助成金 | 4,315,000 | 4,315,000 | 0 |
| ④ 受取寄付金 | [429,970] | [429,970] | [0] |
| 受取寄付金 | 429,970 | 429,970 | 0 |
| ⑤ 雑収益 | [67,006] | [67,006] | [0] |
| 受取利息 | 6 | 6 | 0 |
| その他 | 67,000 | 67,000 | 0 |
| 経常収益計 | 14,843,227 | 4,985,976 | 9,857,251 |
| (2) 経常費用 | | | |
| ① 事業費 | [14,381,132] | [5,214,776] | [9,166,356] |
| 外注費 | 7,627,384 | 2,517,037 | 5,110,347 |
| 荷造運賃 | 9,504 | 3,136 | 6,368 |
| 活動支援金 | 700,000 | 700,000 | 0 |
| 広告宣伝費 | 1,831,150 | 604,280 | 1,226,870 |
| 会議費 | 129,600 | 42,768 | 86,832 |
| 旅費交通費 | 3,293,051 | 1,086,707 | 2,206,344 |
| 通信費 | 31,614 | 10,433 | 21,181 |
| 消耗品費 | 59,250 | 19,553 | 39,697 |
| 新聞図書費 | 0 | 0 | 0 |
| 諸会費 | 126,635 | 41,790 | 84,845 |
| 支払手数料 | 27,324 | 9,017 | 18,307 |
| 支払報酬料 | 540,000 | 178,200 | 361,800 |
| 貸借料 | 5,620 | 1,855 | 3,765 |
| 保険料 | 0 | 0 | 0 |
| ② 管理費 | [2,052,400] | [677,292] | [1,375,108] |
| 外注費 | 1,814,400 | 598,752 | 1,215,648 |
| 荷造運賃 | 3,054 | 1,008 | 2,046 |
| 交際費 | 6,588 | 2,174 | 4,414 |
| 会議費 | 0 | 0 | 0 |
| 旅費交通費 | 9,351 | 3,086 | 6,265 |
| 通信費 | 69,964 | 23,088 | 46,876 |
| 消耗品費 | 15,543 | 5,129 | 10,414 |
| 支払手数料 | 100,000 | 33,000 | 67,000 |

| | | | |
|-------------------|-------------|-----------|------------|
| 賃借料 | 33,100 | 10,923 | 22,177 |
| 租税公課 | 400 | 132 | 268 |
| 経常費用計 | 16,433,532 | 5,892,068 | 10,541,464 |
| 当期経常増減額 | △ 1,590,305 | △ 906,092 | △ 684,213 |
| 2 経常外増減の部 | | | |
| (1) 経常外収益 | [0] | [0] | [0] |
| 経常外収益計 | 0 | 0 | 0 |
| (2) 経常外費用 | [0] | [0] | [0] |
| 経常外費用計 | 0 | 0 | 0 |
| 当期経常外増減額 | 0 | 0 | 0 |
| 税引前当期一般正味財産増減額 | △ 1,590,305 | △ 906,092 | △ 684,213 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 70,000 | 0 | 70,000 |
| 当期一般正味財産増減額 | △ 1,660,305 | △ 906,092 | △ 754,213 |
| 一般正味財産期首残高 | △ 192,286 | | |
| 一般正味財産期末残高 | △ 1,852,591 | | |
| Ⅱ 正味財産期末残高 | △ 1,852,591 | | |

(注) 事業費のうち各事業に共通して発生するもの及び管理費は、受取助成金と受託事業収益の割合(公益33%、収益67%)により各事業に配分した。

監査報告書

一般社団法人 CEPA ジャパン
代表理事 川廷 昌弘 殿

私は、平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

監事は、理事等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿またはこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

2 監査意見

(1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

平成 年 月 日

一般社団法人 CEPA ジャパン

監事 浅見 哲 印

監事 星野智子 印

第3号議案 第8期(2017年度)事業・活動計画

【事業展開方針】 ■第2ステージの仕上げとして

2010年のCEPAジャパン創設から第8期を迎える本年度は、法人としての基礎固めであった「第1ステージ」から、普及拡大を加速度的に高めていく「第2ステージ」の仕上げに入る。生物多様性を入り口にした自然共生な暮らしの気づきから、自然共生な暮らし、「いきもの暮らし」のデザインへ当法人らしい事業展開を形作っていく年と位置づける。その活動のキーワードとして「いきもの暮らし」を掲げ、「5つのアクション」に基づいて事業展開する。

【今年度の具体的な事業】

1. 生物多様性アクション大賞 2017

7月1日に募集開始。8月31日応募締切。表彰式典を11月19日予定、また大賞のプレゼンをエコプロ展で開催を検討。環境省と連携して、国家規模のアワードとして確立させていきます。

◆主な事業内容:選考事務局運営、ウェブサイトによる情報発信、映像制作、贈呈式記念イベント、及びパワーアップ地域ワークショップ開催など

2. CEPA プログラム「楽しく学ぼう生物多様性」

2020年までの学習プログラム実施の検討。■予算の確保、■開催地の検討、■対応理事の検討、■環境省と10年委員会を含む外部機関との効果・効率的な連携を図る。

◆主な事業内容:公開したCEPAツールキットの活用 COP12のCEPA決議では、ツールキットの更新が盛り込まれているため、新たな動きにも対応、まずは拡散し日本のCEPAフォーカルポイントとして確立。

3. 体感型の普及啓発イベント

「いきもの暮らし」を共有し実感できるようなイベント、5つのアクションの事例収集など、様々な形態を検討。都市生活の中で、もっと身近に、生物多様性を感じる事業など展開。

◆主な事業内容:展示型イベント(エコプロダクツ展・生物多様性スクエアの充実&継続、アクション大賞の連携)体験型イベント(自然観察会、B センスフォーラムなどと連携)、ネットワーク自然観察会など

4. 広報

継続して懸案であった「CEPA ジャパン」オフィシャルサイトのリニューアル、さらに情報発信に努め、「いきもの暮らし」サイトでの全国各地から「5つのアクション」に基づいた事例収集を行う。

◆主な事業内容ウェブサイト運営

リニューアルしたサイトの拡散、トップページのウェブショウケースと、これに連動した活動の検討。

5. 組織運営

当法人への期待に応えるために、年々充実した財務の更なる安定化を図り、継続的な事務局体制を確立させる。

◆主な事業内容:事務局業務の拡充、事業収入の拡大など

6. 他団体との連携・協働

日本におけるCEPA活動の中核を担う法人として、愛知ターゲット達成に向けて、全てのセクターとの連携を図り、これまでにない広報、教育、普及啓発の施策を創発する。

◆主な事業内容:MY 行動宣言5つのアクション事務局(宣言を2020年までに100万集める方針)、IUCN-J(生物多様性の主流化に向けたCEPAメインプレイヤーとしてのポジション)、CEPA-IAC(条約事務局から推薦があったCEPAプログラムへの参画)、UNDB 企画提案委員等

第4号議案 2017 年度予算案

事業所名：CEPA ジャパン

期間：平成 29 年 4 月 1 日,平成 30 年 3 月 31 日

| 勘定科目 | 7 期予算 | 8 期予算 | 増減率 |
|----------|------------|------------|---------|
| [経常収益] | | | |
| 受取会費 | 300,000 | 300,000 | 100% |
| 受託事業収益 | 8,000,000 | 9,000,000 | 113% |
| 受取助成金 | 4,000,000 | 4,000,000 | 100% |
| 受取寄付金 | 200,000 | 200,000 | 100% |
| 雑収益 | 0 | 0 | #DIV/0! |
| 経常収益合計 | 12,500,000 | 13,500,000 | 108% |
| [経常費用] | | | |
| [事業費] | | | |
| 外注費（事） | 1,800,000 | 3,500,000 | 194% |
| 荷造運賃（事） | 10,000 | 10,000 | 100% |
| 活動支援金（事） | 700,000 | 700,000 | 100% |
| 広告宣伝費（事） | 3,000,000 | 2,000,000 | 67% |
| 会議費（事） | 300,000 | 300,000 | 100% |
| 旅費交通費（事） | 2,500,000 | 3,000,000 | 120% |
| 通信費（事） | 90,000 | 60,000 | 67% |
| 消耗品費（事） | 70,000 | 70,000 | 100% |
| 新聞図書費（事） | 100,000 | 50,000 | 50% |
| 諸会費（事） | 20,000 | 150,000 | 750% |
| 支払手数料（事） | 30,000 | 30,000 | 100% |
| 支払報酬料（事） | 600,000 | 600,000 | 100% |
| 賃借料（事） | 300,000 | 300,000 | 100% |
| 保険料（事） | 10,000 | 10,000 | 100% |
| 事業費計 | 9,530,000 | 10,780,000 | 113% |
| [管理費] | | | |
| 外注費（管） | 2,000,000 | 2,000,000 | 100% |
| 荷造運賃（管） | 30,000 | 30,000 | 100% |
| 広告宣伝費（管） | 0 | 0 | #DIV/0! |
| 会議費（管） | 60,000 | 60,000 | 100% |
| 旅費交通費（管） | 30,000 | 30,000 | 100% |
| 通信費（管） | 40,000 | 70,000 | 175% |

| | | | |
|----------------|-------------------|-------------------|-------------|
| 消耗品費（管） | 70,000 | 70,000 | 100% |
| 事務用品費（管） | | | #DIV/0! |
| 支払手数料（管） | 150,000 | 150,000 | 100% |
| 賃借料（管） | | | #DIV/0! |
| 租税公課（管） | 60,000 | 60,000 | 100% |
| 雑費 | 80,000 | 80,000 | 100% |
| 管理費計 | 2,520,000 | 2,550,000 | 101% |
| 経常費用合計 | 12,050,000 | 13,330,000 | 111% |
| 当期経常増減額 | 450,000 | 170,000 | 38% |

第 5 号議案 理事の選任

[理事候補]

川廷 昌弘(再任)

服部 徹 (再任)

水野 雅弘(再任)

川上 典子(再任)

森 良 (再任)

井上 義雄(再任)

佐藤 健一(再任)

上田 壮一(再任)

坂田 昌子(再任)

佐藤 正弘(再任)

宮本 育昌(再任)

[監事]

浅見 哲(再任)

星野 智子(再任)

[参考資料]

■シンボル

A

もっと身近に、生物多様性。

B

もっと身近に、
生物多様性。



C



[CEPA ジャパンのミッション]

- 1、愛知目標達成のため、生物多様性の普及啓発を推進し
全国の取り組みを紹介する受け皿となる
- 2、地域の個性を守るため、各自治体や企業、市民と
生物多様性の実施計画を推進する
- 3、持続可能な生産と消費と、Green Economy の理解促進を図り
新しい取り組みを創出する

[CEPA ジャパンのビジョン]

生物多様性が豊かであり、災害大国でもある国土に生きる市民として、COP10 で採択された「愛知ターゲット」達成のため、日本の市民社会が提案して国連総会で採択された「国連生物多様性の10年」を推進します。

そのために、日本の伝承文化や CEPA プログラムを、生物多様性を理解し自然と共生する心豊かな暮らしを理解できるツールとして活用します。

そして、持続可能な社会の実現を加速させる誰もが学びたくなる「アース・コミュニケーション・センター」を、都市の中心部に世界に通用するエデュケーションセンターとして建設することも目指します。

さらに、先住民族グループ(IIFB)ともグローバルな活動をしながら、2050 年には地球上に存在する社会すべてが自然資源のバランスに配慮した幸せな社会となっていることを目指します。